

創刊110周年記念

誇れるふるさと 24地区リレー

〈vol.1〉

<上宇部①特徴>

地域に根差し、地元のニュースを伝えてきた宇部日報。1912(明治45)年に前身の宇部時報社が創刊して、今年で創刊110周年を迎えた。その節目を記念し、市内全24地区の歴史、地理的特徴、課題、小学校歌などをひもときながら、各地区を4回連載で紹介する。



上宇部発展の原点ともいえる福原邸跡（中尾一丁目）

「宇部発祥の地」を自負



基本データ

- 面積5.21平方キロメートル(13位)
- 世帯数7070世帯

地域主体で住民支援

歴史を振り返ると、上宇部地区が栄え始めたのは、毛利氏家の福原元俊が宇部の領主となつた1625(寛永2)年以後。中尾に邸宅（現在の福原史跡公園）を構えると、西は小串や藤曲、南

2021年に市制施行100周年を迎えた宇部市は、1921(大正10)年に村から一足飛びで市昇格した。かつての村役場は、寺の前町（現在の宇部高）にあり、上宇部は当時の中心を担つていた。それが「宇部発祥の地」といわれる理由の一つだ。

現在の上宇部地区的面積は5・21平方キロメートル。そ

の中に市内最多の7070世帯、1万3422人(1位)

- 人口1万3422人(1位)
(男6560人、女6862人)
- 高齢化率31.66%
- 小学校児童数614人

※世帯数などは2022年4月1日現在

は梶返や岬、東は床波へと続く幹線道路の要衝として発展していく。明治維新後、新戸籍が編成される中で、1879(明治12)年に、沖宇部、上宇部、中宇部、川上、小串の5村を統括する戸長役場が寺の前に置かれた。そして89年、5村が合併して宇部村となる。市の礎が出来上がり、市の礎が出来上がった。そこで89年、5村が合併して宇部村となる。今年度は地区社会福祉協議会の主導により、民生兌童委員たちがふれあいセンターで「子ども食堂」の運営を始める。地域が主体となり住民を支えていく「うとい」意識が高い。

浅田会長は「他の地区からは、上宇部は地域づくりの活動が活発だと言われるが、当事者としてはまだまだ」と言う。地区内には支援を必要とする世帯も多く、小さな子どもから高齢者までが手を取り合つて住みよい地域をつくるには「地域を住民自らが動かしていく」という意識をさらに高められる必要がある」と話す。住民たちには「宇部発祥の地」という自信がある。